

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°29 カリーム・ヴィオネ

生産地方：ボジョレー

新着ワイン2種類♪

AC ボジョレー・ヴィラージュ カー・ヴェー 2013 (赤)

今回からミッシェル・トルメのデザインしたラベルに一新！また同時にワイン名も「キュヴェ・ヴァレリー」から、ボジョレー・ヴィラージュKV（カー・ヴェー/カリーム・ヴィオネのイニシャル）に変更されている！ちなみに、KVの周りを囲む赤丸は日本の国旗をイメージしている！カリームのワインを最初に認めてくれた日本への感謝の思いがこのラベルに込められているのだ！カーヴで2年以上瓶熟されたワインは、果実がきれいにこなれて色つやが出てきている！

AC ボジョレー・ヴィラージュ デュ・ブル・ダン・レ・ピナル 2014 (赤)

カリームが新しくリリースするボジョレー・ヴィラージュ！こちらラベルはミッシェル・トルメによるデザイン♪ブドウは、ヴァンナチュールに多大な影響を与えたあの亡きジュール・ショヴェの畑からだ！カリーム曰く、ショヴェの畑はシェナとムーラン・ナ・ヴァンの境にあり、ワインもエレガントの中に力強さも兼ね備えているとのこと！ワインの名前は、直訳すると Beur（アラブの2世）が dans les Pinards（安酒に浸かる）という意味がある。元々カリームのルーツがアラブ系で、アラブ人はお酒を飲まないという彼に対するフランス人の一般的なイメージを皮肉るようなかたちでエチケットはつくられている。また、このブル・ダン・レ・ピナルは Beurre dans l'épinard（ほうれん草に入れるバター）と同じ発音であることから、エチケットにはポパイに真似て、ほうれん草の代わりにワインをかつ食らうカリームがユーモラスに描かれている！

ミレジム情報 当主「カリーム・ヴィオネ」のコメント

2013年は、2012年同様にとっても厳しいミレジムだった。日照量に恵まれず、冬は暖冬で霜もなく春の開花前までブドウの成長も順調だった。だが、開花時に雨が降り、その影響のため花冠（おしべに被さっているキャップ状部分）が脱帽せずにくっつき、そのまま結実不良になったブドウが多く見られた。その後も8月まで雨の多い不安定な天候が続き、ブドウの成長にブレーキがかかった。8月終わりにはムーラン・ナ・ヴァン周辺に雹が降り、隣のシャベルの畑が全滅する被害に遭ったが、ヴィラージュのブドウは辛うじて病気や災害を被ることなく、平均並みの収量を確保できた。収穫は例年よりも2週間ほど遅く、アルコール度数も例年に比べて高くはないが、ブドウの成熟をギリギリまで待った分、全体的にコンパクトに味わいがまとまったバランスの良い上品なワインが出来上がった！

2014年は、2012年2013年と打って変わってスタートが良く、まるで長く凶作に押しつぶされていたエネルギーが一気に反発したかのようにブドウが成長した。開花も全て順調に終わり、成長サイクルとしては収穫の早かった2011年を彷彿させた。だが、7月後半に入り一転、雨が多く気温の上がらない不安定な天候が続き、ブドウの成熟にブレーキがかかった。一時は去年や一昨年よりも不作なのでは！？という心配もあったが、9月に入り一転天候が回復。ブドウは腐敗を最小限にとどめ、成長の遅れを一気に取り戻した！

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

2016年は、2度の雹の直撃やミルデューの猛威など、かつてないほど厳しい境遇に直面している。そして特にエスカの被害が深刻のようだ。エスカとは、剪定の切り口などから侵入しそのまま繁殖しながら細胞を破壊し、最後はブドウの木を死に至らしめる菌の一種で、繁殖を防ぐためには死んだ木を伐根するのが被害を抑える一番安全な対処法だ。（昔は、亜ヒ酸ナトリウムというヒ素系の農薬を散布していたそうなのだが、劇薬のため2001年に使用禁止となった）エスカの被害は何も今年に限ったことではなく、毎年数本くらいが被害に遭うのは、どこの畑でも見られる光景だが、でも、今年は数本どころではない…ボジョレー・ヴィラージュの区画によっては10%ほどのブドウの木がエスカよって枯れてしまっている…。「きれいなブドウの房が付いたままじわじわと枯れていくブドウの木を見るのはとても辛い、我々にはどうすることもできない…」と嘆くカリーム。原因は今のところ、春に続いた長雨により菌が繁殖し、夏は逆に雨がほとんど降らなかったため、樹液を循環できずどんどん細くなり、ついには水分が途絶えて枯れてしまったのだろうと言われているが、はっきりと解明はされていない。ちなみに、このエスカの被害は、カリームだけではなく、ケヴィンやジャンの畑でも見られた。一部のビニョロンだけではなく、もしかしたらボジョレー全体の問題だとしたら恐ろしいことだ…。

(2015.9.11.ドメーヌ突撃訪問より)